ユネスコ群馬 No. 79

群馬県ユネスコ連絡協議会

http://gunma-unesco.com

会長　樋口　克己　　事務所　群馬県教育委員会生涯学習課

つなげよう平和の心　広げようユネスコの輪

持続可能な社会の実現を目指して

群馬県ユネスコ連絡協議会
会長　樋口　克己

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大により多大な影響を受けました。日本だけでなく、世界中でコロナの災禍を被った一年でした。生活面から政治・経済に至るまで被害は甚大なものでした。

ユネスコ活動もコロナ禍で大きな制約を受けました。2020年度は、日ユ協全国大会やブロック別研究会も中止になりました。日常の活動が大きく制約されました。

関東ブロック・ユネスコ活動研究会は群馬開催予定で、準備を重ねて参りましたが、開催中止となりました。しかし、実行委員会を組織し、２年越しの開催に向けた準備活動をとおして得られた成果も大きく、今後の群馬県ユ連の活動に資するものとなりました。

話しは変わりますが、国際平和と人類の共通の福祉をという目的を促進するために国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）が創設されてから70年余りが経過します。

しかしながら、今日も地球上では紛争が絶えず、テロも続発しており、世界平和が実現しているとは言えません。世界平和を希求するユネスコの理念の崇高さと使命の大切さをあらためて強く感じます。

2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」（ＳＤＧｓ）では、国際社会が一丸となって取り組むべき目標が明示されました。その前文では「平和なくして持続可能な開発目標は達成できず、また、持続可能な開発なくして平和は実現できない」と謳っています。そして、2030年までに達成すべき17の目標が掲げられました。

私たちは、今後ともＳＤＧｓの目標の達成を目指し、持続可能な社会の実現のためにユネスコ活動を推進したいと思います。県民の皆様や関係団体・機関のご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

新年のごあいさつ

群馬県教育委員会
教育長　笠原　　寛

明けましておめでとうございます。

新年を迎えるに当たり、群馬県ユネスコ連絡協議会の皆様から、日頃県教育行政にお寄せいただいております御支援と御協力に対し、心から感謝を申し上げます。

さて、昨年から新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るう中、ユネスコは昨年４月という早い段階で、ユニセフや世界銀行、国連世界食糧計画と協働し、新型コロナウイルスの影響で休校中の教育施設について、再開に向けた政策決定を支援するための国際的な枠組みを示す指針を発表しました。当時としては未知のウイルスの流行に対して、科学的な根拠を持って対応するという意味において、とても意義のあるものだったと思います。

また、県ユ連におかれましては、国際理解バスや海外青年との交流など、長年にわたり継続してきた活動が、従来通りに実施できないなどの御苦労があるかと思いますが、ユネスコ憲章の前文に「教育、科学及び文化上の関係を通じて、（中略）国際平和と人類の共通の福祉という目的を促進する」とあるとおり、コロナ禍においても、ユネスコが果たす役割はとても重要であると考えています。

結びに、今年が明るく希望が持てる年となりますとともに、皆様方の御多幸と御健勝をお祈り申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。

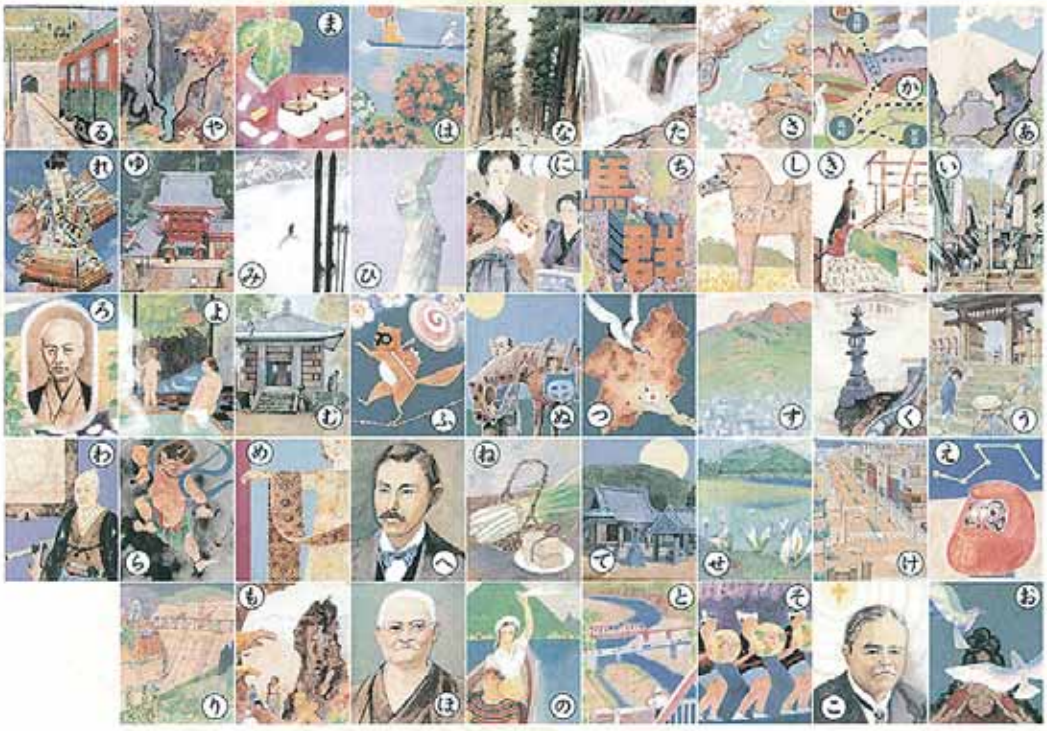
PEACE FOR TOMORROW

広げよう　平和の心

－持続可能な社会の実現を目指す民間ユネスコ活動－

2020年度

関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 群馬



▲ 上毛かるた　許諾第 01-02110 号

2020年 10月24日｜土｜

会　場　ホワイトイン高崎

〒370-0818　高崎市赤坂町９４　TEL 027-325-5858

主　催 ■ 公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟
関東ブロック・ユネスコ連絡協議会
群馬県ユネスコ連絡協議会

主　管 ■ 高崎ユネスコ協会

後　援 ■ 群馬県／群馬県教育委員会／高崎市／高崎市教育委員会
一般財団法人 群馬県教育振興会／株式会社 上毛新聞社
群馬テレビ株式会社／関東地方ESD活動支援センター

2020 関ブロユネスコ群馬大会リーフレット表紙

2020年度関東ブロック・ユネスコ活動研究会in群馬　総括

実行委員長　岸　　正博

2020年10月24日（土）に開催予定だった「関東ブロック・ユネスコ活動研究会in群馬」は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止となりました。

群馬県ユ連の目指すべき方向性と、各ユ協の日常の活動と課題意識を整理したものを関ブロ群馬大会で提案していくものでした。研究会という場で提案・協議はできませんでしたが、大会テーマと開催趣旨、並びに分科会テーマと分科会趣旨に掲げた課題意識は、今後も継続して取り組んでいかねばなりません。

１　関ブロユネスコ群馬大会テーマ
広げよう　平和の心
－持続可能な社会の実現を目指す
民間ユネスコ活動－

２　関催趣旨　（後掲）

３　分科会テーマと趣旨

第１分科会　平和活動・世界寺子屋運動と国際理解
（趣旨）激動する国際社会において、真の世界平和が実現しているとは言えない状況がみられる現在、ＵＮＥＳＣＯ憲章（前文）の言葉の重さを感じます。平和は、「知的及び精神的連帯の上に築く」ための具体的な取組がいま問われています。民間ユネスコ活動の具体的な実践から、成果と課題を提案します。

第２分科会　ＳＤＧｓ／ＥＳＤ・ユネスコスクール
（趣旨）持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、ＥＳＤを通じたＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の達成が国際目標となっています。ＥＳＤが新学習指導要領の基盤となる理念となり、ユネスコスクールの充実が期待されます。民間ユネスコ協会とユネスコスクールとのかかわりを中心に取組の成果と課題を提案します。

第３分科会　世界遺産・未来遺産
（趣旨）関東ブロックには、「プロジェクト未来遺産」に10のプロジェクトの登録、また、１都２県に「世界遺産」、「世界の記憶」遺産を持ちます。普遍的な価値を持つとされる遺産等の保護・安全・価値の発信など、民間ユネスコ活動の取組の成果と課題を提案します。

第４分科会　ユネスコ活動の役割・活性化
（趣旨）私たちは地域で何をなすべきか、ユネスコ活動には何が期待されているのか。これからの民間ユネスコ活動の役割は何かなど、民間ユネスコ協会の組織・運営や活動について課題を整理し、これからの民間ユネスコ協会の組織・運営・活動について、成果と課題を提案します。

以下、活動の記録として整理し、報告いたします。

2019年２月19日に藤岡市総合学習センター研究所室にて、実行小委員会準備会を開催。小委員会（大会会長、県ユ連事務局長、実行委員長、各部会長、実行委会計の計９名）発足。県ユ連理事会に於いて、大会テーマ、分科会等のアンケート実施。６月12日、県ユ連内に関ブロユネスコ群馬大会実行委員会発足。毎月１回の実行小委員会、及び、実行委員会を開催。オール群馬の体制での準備を進めました。

関ブロユネスコ埼玉大会でのプレゼン 2019・10・５

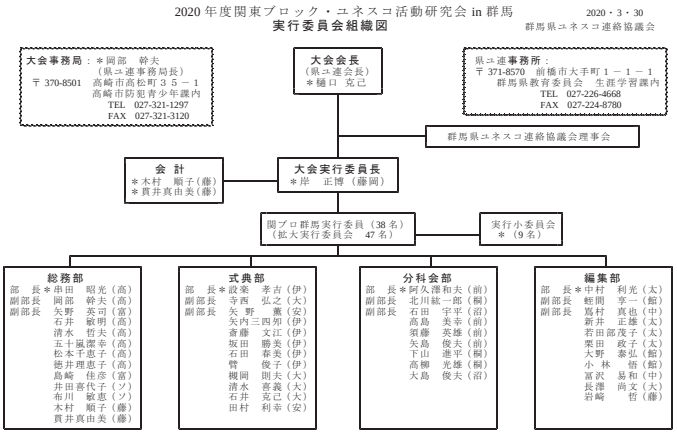
2019・３・20県ユ連理事会において提案
・実行委員会組織　各ユ協から委員２名選出
・大会会場検討（①エテルナ高崎、②ホワイトイン高崎、③ホテルメトロポリタン高崎）
・大会期日の決定2020年10月24日（土）
・各ユ協に大会テーマ、分科会、基調講演内容についてのアンケート実施

（参考）「ブロック研修についての日ユ協連資料」
①会員研修を主な目的とし、会員の交流、開催地におけるユネスコ運動の周知や地域の活性化なども目的とする。②原則１日開催③主管ユ協は、本研究会の上限を定めて実施。懇親会は受益者負担とし、赤字を出さないよう徹底する。④主管ユ協の負担を減らすために、参加者の下限を3,000円とする。

（参考）「県ユ連50周年記念大会宣言」
①ユネスコの理念を次世代に伝え、後世にも活動をつなげていく。②ユネスコ活動を普及し、平和を目指す活動の輪を広げていく。③持続可能な社会の構築を目指して、持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）の普及に努める。④ユネスコ世界遺産にかかわる民間活動を推進し、世界遺産・未来遺産・地域遺産にかかわる情報発信や保護・保全の活動に務める。

（活動記録）
2019・２・19　実行小委準備会
2019・３・６　エテルナ高崎、ホテルメトロポリタン高崎下見
2019・３・20　県ユ連理事会において提案（上記）
2019・４・17　３・20提案の調査用紙配布、５・22回収
2019・４・25　ホワイトイン高崎下見
2019・５・22　後援承認申請書送付
2019・６・12　実行委
実行委部会組織提案、ホワイトイン高崎会場に決定、大会テーマ、分科会、基調講演講師について、アンケートをもとに複数案の提示
2019・６・26　実行小委、７・４　実行委
大会要項（大会テーマ、分科会、基調講演講師、日程）、部会組織について協議
2019・７・29　実行小委、８・２　実行委
関ブロ群馬大会要項（案）提示、検討

2019・9・2　実行小委、9・4　実行委
　分科会提案・発表ユ協について、アンケート結果をもとに検討、実行委部会の部会長、副部会長の決定、各部会の仕事内容についての確認・調整
2019・9・30　実行小委、10・2　実行委
　大会要項、開催趣旨、日程の確認
2019・10・28　実行小委、10・2　実行委
　分科会趣旨・内容の検討（1分科会2提案、1提案について発表15分、協議45分、計120分）
　分科会運営（提案2名、コーディネーター、サブ･コーディネーター、記録、写真、機器　各1名）
2019・10・31　関ブロ代表者会議（日ユ協連会議室）
　関ブロユネスコ群馬大会要項の提案・協議
2019・11・7　実行委
　関ブロ群馬大会要項決定、分科会趣旨、提案ユ協の検討、関ブロ埼玉大会運営結果の報告
2019・11・25　実行小委、12・6　実行委
　分科会での提案ユ協（群馬）、提案県決定（2020年2月末までに担当ユ協決定）、関ブロ埼玉大会アンケート結果から参考にすることの確認
2020・1・15　実行委
　各部会での運営・仕事内容の検討・確認
2020・1・22　会場下見、打合せ（ホワイトイン高崎）
2020・1・27　実行小委
　関ブロ群馬大会日程再検討、実行委組織図改訂
2020・2・25　実行小委、3・18　実行委
　大会要項確定、実行委員、拡大実行委員決定
2020・3・20　実行小委
　分科会提案者・テーマ・運営、作業行程・全体計画、大会要項体裁、編集予定確認
2020・4・28　実行小委
　新型コロナウイルス感染拡大による群馬大会可否判断、会場キャンセル期限等の対応確認
2020・5・24　県ユ連定期総会（書面表決）にて、関ブロユネスコ群馬大会要項、予算案提案
2020・5・26　実行小委、7・8　実行委
　群馬大会の中止決定、リーフレット印刷・配布協議
2020・6・30　実行小委
　リーフレットの配布、各部記録整理、会計決算、各ユ協への大会中止文書発送作業
2020・7・8　実行委
　県内関係者へ大会中止文書の配布
2020・7・10　関ブロ群馬大会中止文書送付（後援団体）大会会場キャンセル通知



2020・7・28　実行小委（最終）、9・2　実行委（最終）
　決算報告、リーフレット配布確認、記録の整理

（大会要項）

1　関ブロユネスコ群馬大会テーマ

広げよう　平和の心
－持続可能な社会の実現を目指す
民間ユネスコ活動－

2　開催趣旨

ユネスコ憲章前文には、「政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない」と書かれています。21世紀は激動する社会であり、真の世界平和が実現するとはいえない状況にある中、改めてユネスコの理念の崇高さと使命の大切さを痛感します。

「我々は、地球を破壊から守ることを決意する」、これは、2015年に国連の全加盟国によって採択された持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）アジェンダ2030の一節です。今のままでは、地球も社会も経済も立ち行かなくなるという強い危機感を共有しています。日本ユネスコ国内委員会は、ユネスコ創設70周年の提言として、⑴新しい時代の国際社会における知的リーダーとしての役割、⑵持続可能な社会の実現への貢献、⑶多様性を尊重する社会の実現への貢献を提言しています。

そこで、本大会ではテーマを、「広げよう　平和の心－持続可能な社会の実現を目指す民間ユネスコ活動－」と設定し、グローバリズムが存在価値を問われ、国際社会、地域社会の連帯の危機の中、私たちは地域の中で何をなすべきか、何が期待されているのか、これからの民間ユネスコ活動の役割は何か、を課題意識として本大会で議論を重ね、民間ユネスコ活動の次の第一歩としていきたいと考えています。

3　大会日程

⑴　日時　2020年10月24日（土）10:30
⑵　会場　ホワイトイン高崎
⑶　日程
　9:30～10:30　受付
　10:30～10:50　オープニングイベント：ユネスコスクール合唱部演奏
　（藤岡市立小野小学校合唱部）
　10:50～11:30　開会式（開会宣言、ユネスコの歌斉唱、主催者挨拶、祝辞、来賓紹介）
　11:30～12:40　基調講演：「持続可能な社会－人口減少社会のユネスコ運動」
　講師：鈴木佑司氏
　（日本ユネスコ協会連盟理事長、法政大学名誉教授）
　12:40～13:40　昼食
　13:40～15:40　分科会

第1分科会　平和活動・世界寺子屋運動と国際理解

・「世界寺子屋運動」その成果と課題～見て、感じて、そして明日へ～　（成田ユネスコ協会　木川義夫）
・地方ユネスコ協会の国際交流「中国とインドネシアとの国際交流」（前橋ユネスコ協会　須藤英雄）

第2分科会　ＳＤＧｓ／ＥＳＤ・ユネスコスクール

・SDGsスクールとESD for 2030
（新宿ユネスコ協会　宮崎冴子）

・ESD for 2030と地球市民教育（GCED）
（玉川大学ユネスコクラブ　小林　亮、飯島千賀子）

第３分科会　世界遺産・未来遺産

・世界遺産「日光の社寺」の保護と普及活動
（日光ユネスコ協会　高田雄康　稲垣康夫）
・仮称「日本絹遺産群」構想
（桐生ユネスコ協会　北川紘一郎）

第４分科会　ユネスコ活動の役割・活性化

・地域に密着した活動と他団体との交流
（北茨城ユネスコ協会　滑川光仁）
・論語を楽しむ会－ユネスコ活動を会員相互の学びの場に－　（深谷地方ユネスコ協会　柴崎千穂）

15:40～16:00　移動・休憩
16:00～16:50　閉会式（ユネスコ国内委員報告、日本ユネスコ協会連盟報告、分科会報告、次年度開催県挨拶、閉会宣言）
16:50～17:10　移動・休憩
17:10～18:40　交流会

４　参加費用

・研究会　4,000円（35歳以下2,000円、児童生徒無料）
・交流会　6,000円

各ユネスコ協会だより

桐生ユネスコ協会

つづく組織力強化への模索

副会長　下山　進平

１．令和２年度のこと

①　総会について；

新型コロナウイルスのために様々な場面で自粛が相次いだ年度であったが、ご多分に漏れず桐生ユ協でも術のなさを味わった。そんな中で、総会だけは９月15日に無鄰館（北川会長宅内）で開くことが出来た。役員会を兼ねたこの日、令和３年度の県ユ連総会を桐生で開催したい旨、樋口県ユ連会長から打診のあったことが報告された。現状では難しいのではとの声も出たが、弱体化した桐生ユ協立て直しの起爆剤になるのでは、との樋口会長からのメッセージが紹介され、出席者全員の賛意を得た。

令和３年度の県ユ連総会は、５月22日（土）に桐生市市民文化会館・国際会議室で開催できるよう手配をさせていただいた。

②　桐生市文化祭について；

コロナ禍で文化祭も中止となり、桐生ユ協唯一の存在の証ともいえる「ユネスコ世界遺産パネル写真展」を開催することはできなかった。

２．令和３年度のこと

①　桐生を会場とする県ユ連総会について；

上記１①の通り、準備に入らせていただいた。無事開催のための力量が問われるところだが、一同知恵を絞り、このことに全力を傾注したい。

②　会員増強のための努力；

小規模化してしまった桐生ユ協が毎年掲げる課題である。旧臘13日に、ＴＢＳテレビで長時間にわたり「炭水化物のまち」をテーマとして桐生の食文化が紹介されたが、何かのきっかけで、やがて桐生が人口増に転じることを期待したい。しかし今は、会員増強のために桐生ユ協は何をなすべきか、これだけを真剣に考えなければならない。

③　桐生市文化祭参加行事の強化；

定着している「ユネスコ世界遺産パネル写真展」を、さらに進化・発展させたい。外部から世界平和に一家言ある人を招き、写真や文章を展示することなども机上プランにのぼっている。

太田ユネスコ協会

コロナ禍における活動の工夫

会長　中村　利光

各種団体がコロナ禍で例年にない状況にあり、太田ユネスコ協会も、子どもや関係者の健康・安全を最優先するため、３密の回避が難しい定期総会は書面開催に、国際理解バス・イングリッシュスクール・近接高校弁論大会は、中止にする対応をとりました。

市内外では多くの催しが中止となり、学校も授業時数確保が難しく文化的・体育的行事の見直しが行われています。校長会へのアンケートで、子ども達を励まし賞賛する機会が減っている状況が分かりました。

そこで、園児や小中学生対象の諸外国交換ユネスコ児童生徒作品展について、中止とせず園や学校への支援となる在り方を検討しました。入場者が4,500人程になる学習文化センターでの展示は行わず、作品募集のみ行いました。また、書や絵など950点程の作品の搬入・審査も難しいため、園や学校の審査結果により賞状と賞品を授与しました。さらに、作品制作の負担軽減のため、作品募集は２・３学期の２回行いました。２学期は69園校から586点の応募があり、賞賛する機会を提供することができました。３学期に応募を予定する園・学校も多く、楽しみにしています。

太田ユネスコ協会は、平成５年より書きそんじハガキ回収や寺子屋募金を行い、27年間に渡り世界寺子屋運動へ参加しています。貧困・飢餓・紛争などで１億2,100万人の子どもが教育を受けられず、コロナ禍で一層深刻になっています。そこで、書きそんじハガキ・キャンペーン2021に重点化して取り組むことにしました。校長会議の席で事業の趣旨や現状を説明し、ご理解とご協力をいただけることになりました。多くの小中学校や高等学校から参加希望があり、今後の事業の充実が期待されています。

また、これらの活動を通して学校が取り組んでいるＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の達成と、ＥＳＤ（持続可能な社会の担い手を育む教育）の推進にも寄与していきたいと考えています。

前橋ユネスコ協会

自己研修で活動の飛躍に！
世界遺産見学会を振り返り

会長　矢島　俊夫

今年は各ユネスコ協会とも新型コロナウイルス感染防止のため行事が中止になり、実施する場合でも規模を縮小することが余儀なくされていることと思います。

前橋ユネスコ協会も総会をはじめ国際理解バス、子ども絵画展、ユネスコバザー、外国料理教室等の行事が軒並み中止になりました。

毎月の定例役員会の中でいままで自己研修で近くの世界遺産を見学したいという提案がなかなか実現できなかったこともあり、今年度は研修会の一環として世界遺産の見学を行うことになりました。

候補地に挙がったのは２カ所、富岡製糸場と栃木県の日光です。富岡製糸場は世界遺産センターが出来て見学したいところです。また日光東照宮、日光山輪王寺三仏堂も平成の大改修が終わり見てみたい所です。結局、多数決で日光に決定し参加者12名で日光の世界遺産を見て廻りました。

改修が終わった後の日光東照宮本殿陽明門は日本を代表する美しい門であることは誰もが認める寺社だと思いました。現在は若い世代からパワースポットの地としても人気があるそうです。

今回の研修会でほとんどの会員が訪れたことのない施設を見学できました。一カ所目が中禅寺湖に向かう途中の日光田母沢御用邸です。大正天皇の御座所などに使われ、部屋数は106室、明治維新以降の西洋化の中にあって、和風建築の伝統建築につながる貴重な建造物として国の重要文化財に指定されています。２カ所目は中禅寺湖の湖畔に建つイタリア、イギリス大使館別荘です。湖の周りの紅葉と建物がマッチしていてとても感動しました。

来年になりますが、書きそんじハガキの収集はなんとしても行いたいといまから準備しています。

伊勢崎ユネスコ協会

一年間の活動を振り返る

会長　設楽　孝吉

令和２年の行事は当初から理事会以外の事業実施は見送られる事となりました。それでも５月に入り理事による会費の集金等においても久しぶりの会話により一層の親睦が深まり楽しい一時が過ごせた方も大勢いたのではないかと思います。賛助会費は事務局と役員が共に各企業を訪問し情報交換、その話の中からこれからのユネスコ活動に参考とし取り入れて行く事が出来れば一層関係が深まる事と思います。

６月26日、当協会の行事として第３回理事会を開催する事が出来ました。

令和２年の行事の見直し確認に入り第１回、第２回の理事会中止、５月の総会および研修旅行の中止確認、８月開催の市子ども会育成会との共催事業「夏休み子ども作品展」の中止、10月の秋の研修会の検討、令和３年１月上旬～２月末までの書きそんじハガキの回収実施、１月新春会員の集い未定等不確定な行事が続きます。９月２日第４回理事会開催時にＥＳＤ・ＳＤＧｓの研修会を理事の方を対象に開催。講師に当会員の臂泰雄氏（環境カウンセラー）をお願いしました。プロジェクターを駆使したＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）とＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）を中心に17のターゲットを見据えた講義では、普遍的不可分と思われるものも制度、組織、習慣を見直し、変革の対象でなければならないこと、また、物を消費するだけでなくその先の何を見据えて我々は行動していくのかを考え実践し、資源の有効活用、リサイクルなどを進め、使い捨てではなく最後まで使い切ることの大切さを教えて頂きました。

今年度は当ユネスコ協会にとって充電の年と考え次年度に繋げていければ価値ある１年なのかもしれません。私たちが遭遇した新型コロナウイルスも新しい考え方、行動方法などの知恵を未来に向かって作りだすための目標・指針になれば、克服したことになるのではないかと思います。

高崎ユネスコ協会

コロナ禍での高ユ協行事（４月～12月）
～自粛が委縮にならない心根～

会長　串田　昭光

今年は、コロナ禍で感染症防止対策、健康管理などに心血を注ぐ活動が求められた。活動にあたって会員の共通認識は、「自粛が委縮にならない心根」であった。市民部防犯･青少年課や小中学校校長会、ＰＴＡ連合会などの関係機関や関係者の理解、力強い支援・協力により下記の行事を開催できた。

こうしたことは、青少年の健全育成を通して持続可能な社会の実現に向け活動する本会への「関係各

位のエールの結集」と受け止め感謝している。そして、新たな半世紀に向けたスタート年は、一人ひとりが活動にきめ細やかに取り組む営みにより、会員相互の絆への意識がさらに強くなったことを体感させてくれる。

記

１　中止の行事（時期・会場等）
・市スプリング・フェスティバル・バザー（４月・音楽センター広場）
・青少年キャンプ・理解バス親子説明会（７月・市中央公民館）
・青少年キャンプ（８月・倉渕わらび平キャンプ場）
・国際理解バス（８月・フィンランド国大使館）

２　自粛下での開催行事（時期・会場・創意工夫等）
◇定例理事会（４月～12月・市中央公民館・協議時間の凝縮や協議事項の精選）
◇通常総会（５月・議案書郵送・紙面承認）
◇ユネスコ国際児童画展（10月・シティギャラリー
・入場時の健康調査などの感染症対策、展示作品の半数削減や会員による展示作業による子どもや先生の負担軽減）
◇ユネスコ作文募集・審査（11月・市中央公民館・作文テーマ枠の拡大や賞を削減しての会員審査により子どもや先生の負担軽減）
◇子どもの幸せを考える研究集会（11月・市中央公民館・入場時の健康調査などの感染症対策や参加者を半分に制限）

３　自粛が委縮にならない心根
～感染症の基本的事項の共通理解の下で～
○感染症対策を最優先した開催・運営要項の企画と精緻な運営
○感染症を正しく恐れるための情報収集と自己研修
○体温測定、マスク着用、手洗い等のこまめな日常の健康管理
○学びや体験で培った危機察知・管理能力の発揮を意識しながらの活動への取組

富岡ユネスコ協会

変化への柔軟な対応力

会長　矢野　英司

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた各事業が中止となりほとんどの活動を行うことができませんでした。

2020年３月には、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために、子どもたちの健康と安全を第一に考え、全国すべての小中学校と特別支援学校で臨時休校となりました。また、飲食店などの休業や時短営業が要請され医療崩壊を食い止めようと協力を求められました。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、テレワーク、通勤、会議、食事会などに大きな変化をもたらし私たちの生活を直撃しました。

世界的動向を見ても、いくら厳しい自粛を続けてもこれだけ感染力が強く世界中にまん延しきった新型コロナウイルスをゼロにまで撲滅するのは不可能であると思います。

日々変わる感染状況の中、多くの方が将来に不安や心配を抱えています。この先の社会が分からないから、いつ元の生活に戻るかという意識ではなく、現在の状況が続く可能性がある、あるいは、別の大きな変化が生じることを前提として考え行動していく必要があります。私たちはこの新型コロナウイルスと付き合いながらどのように生活の基盤となる経済を回し、教育や文化、スポーツといった人間らしい文化的生活を維持していくかがこれからの対策の争点となっていくのは言うまでもありません。ユネスコ協会として柔軟性をもって新しい時代と向き合い、子どもたちの教育の機会が失われないように対応できるよう行動して参りますので、これからも当協会に対しましてご支援、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

富岡製糸場内清掃活動（リレー・フォー・クリーン）

沼田ユネスコ協会

コロナウイルスの速やかな終息を願って

事務局長　大島　俊夫

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の出来事が起こり、様々な活動が制限され、自粛生活が続いています。沼田ユネスコ協会でも定期総会や当初予定していたいろいろな事業が中止や変更を余儀なくされました。中でも中学生や高校生が毎年楽しみにしているＪＩＣＡ・ＪＡＸＡを訪問する「国際理解バス」が中止されたのは大変残念でした。

しかし、このような状況だからこそ、コロナ感染の早期終息や災害からの復興、世界平和を願って「平和の鐘を鳴らそう」ではないかと考え、会場も１箇所で、三密を避け、手指の消毒等の対策も十分に取って、理事役員を中心とした少人数で実施しま

した。
７月11日午前11時半に長寿院に集合し、開会式、趣旨の説明等の後「わたしの平和宣言」を唱和し、正午に合わせて心を込めて鐘を撞きました。なお、市内の他の寺院・教会・ベラヴィータ・沼田高校でも独自に、同時刻に鐘を鳴らしていただきました。
「わたしの平和宣言」はノーベル平和賞を受賞した人たちが起草したもので、ユネスコ憲章前文を最もわかりやすく説明しています。鐘の響きと共に、一人一人が平和と安全の担い手としての認識を共有するとともに国際理解意識の高揚も図りたいと思い、和文とともに原文（英文）の平和宣言も唱和しました。
コロナ感染拡大する中で、皆さんのご支援ご協力のおかげで平和の鐘を鳴らす事業が無事、成功裏に実施できたことはよかったと思います。
来年は従来のように、盛大に平和の鐘を鳴らすことが出来ますよう願っています。

“MANIFEST 2000”→「わたしの平和宣言」
1　“Respect all life”
　「すべての人の命を大切にします。」
2　“Reject violence”
　「どんな暴力も許しません。」
3　“Share with others”
　「思いやりの心を持ち、助け合います。」
4　“Listen to understand”
　「相手の立場に立って考えます。」
5　“Preserve the planet”
　「かけがえのない　地球環境を守ります。」
6　“Rediscover solidarity”
　「みんなで力を合わせます。」

館林ユネスコ協会

未経験パンデミック

会長　大野　泰弘

2020年は、東京オリンピックに諸外国から大勢の方が日本を訪れ、賑やかな年になるはずだったでしょう。しかし、新型コロナウイルスが私たちの生活を変えてしまった。世界を変えてしまった。
私たちは、マスクの着用や不要不急の外出、飲み会の自粛を要請され、人混みや会話では社会的距離を気にかける。それが当たり前の生活になっています。自宅で過ごすことが多くなり、６月７月の長梅雨、８月の猛暑でなおさら出かけませんでした。
ユネスコ活動においても自粛です。総会の中止、夏のユネスコスクールの中止、市のイベントも中止、懇親会など会員の交流活動は当然のごとく中止です。つまり、新型コロナウイルス感染予防のため何もしなかったということです。
でも企業や学校は何もしないでは済みません。だから仕事ではリモートワークなど新たな働き方が広がり、大型イベントなども解禁に向け開催方法を細かく検討し、学校もいろんな対策をして、新型コロナウイルス感染を防ごうとがんばっています。
私たちのユネスコ活動は自粛することが最良の判断でした。他の地域社会活動も同様です。来年は元にもどれるのでしょうか。その見通しは立っていません。
新型コロナは、冬に向けて再流行が懸念されていますし、ワクチン開発は来年になりそうです。「いつか私もウイルスに捕まってしまうかもしれない。」みんなが抱いている不安と新型コロナの克服を願う気持ち。ひとり一人の感染予防行動が大切なのですが、簡単には行かず、時間がかかりそうに思います。長丁場になりそうですね。
コロナ禍のなか、確実に増えているのが「家で過ごす時間」です。とは言っても私はインターネットでドラマの視聴やオンラインゲームばかりしています。有意義な生活を見つけていきたいです。

安中碓氷ユネスコ協会

新しいユネスコ活動の形を模索して

会長　矢野　　薫

今年度、安中碓氷ユネスコ協会はＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）の達成に向け、ゴール13（気候変動に具体的な対策を）を重点課題として取組を一気に加速していこうとしていた矢先、新型コロナウイルスによる惨禍に見舞われ、新しいユネスコ活動に向けた模索の１年間だったと言えます。
３月の緊急事態宣言発令を受けて、様々な制約と自粛要請のもと、年度当初の総会や理事会を中止し、「地球温暖化のメカニズムを理解しよう！」のテーマで９月に予定していたユネスコ座談会、今年で30回を迎える10月の国際交流の集い、11月の市民展（ユネスコ写真展）、通年で活動しているＥＳＤ／ＳＤＧｓの理解やユネスコスクールの普及啓発、英会話教室の開催も断念しました。
しかし、こうした危機にあっても、ユネスコ協会として、「何ができるのか？また、何をすべきか？」を自問自答し、新しいユネスコ活動の形を模索して参りました。
昨年11月～２月に、安中市民の皆様にご協力いただいた世界寺子屋運動（書きそんじハガキキャンペーン）での募金相当（切手）が17万５千円にも上りました。これら全国からの支援をもとに、日本ユネスコ協会連盟がカンボジアやミャンマーなどの現地支援を実施し、新型コロナウイルス対策プログラムを開始、５月～６月には、ヤンゴン北のパゴー地方域へ布マスクと石鹸を届けたとの報告がありました。どのような状況にあっても、助けを必要としている方たちと連携し、私どもが互いに協力し合うことで、ユネスコ活動の新たな道筋を見出すことがで

きることを学びました。
　そして、６月の緊急事態宣言解除を受け、第一歩を踏み出す活動として、ユネスコ活動写真展（第１弾）を７月に松井田支所で開催し、８月～９月には安中市役所で開催いたしました。また、国際交流の集いについては、市内の中高生の皆さんに、新型コロナをテーマに、難局を乗り越えるための勇気やエネルギーを与えるメッセージを投稿してもらい、新型コロナ対策への意識づけを図るとともに、ＥＳＤ／ＳＤＧｓに向け、新型コロナと共存する社会の担い手を育む取組を実施いたしました。
　ユネスコ座談会では、「地球温暖化のメカニズムを理解しよう！」をテーマに、地球温暖化防止に向けた取組や意気込みについて中高生からメッセージを投稿してもらい、安中碓氷ユネスコ便り（市内全戸配布）に掲載することで、安中市民に向けてメッセージを発信しました。さらに、11月～１月には、ＥＳＤ／ＳＤＧｓの理解と取組の一層の充実を目指して、ユネスコ活動写真展（第二弾）を開催いたしました。
　おわりに、新型コロナが一刻も早く終息し、皆様の英知と実行力を結集し、民間ユネスコ活動として、ＥＳＤ／ＳＤＧｓの取組を一層、加速させることを心より願うとともに、Stay　Positive! Go Forward!”「つねに前向きに進もう！」を合言葉に、互いを信じて、力強く、歩み続けていく所存ですので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ユネスコ活動写真展にて茂木英子様（安中市長）と共に

藤岡地方ユネスコ協会

「ユネスコスクールにおけるＳＤＧｓの推進」

会長　岸　　正博

①「東中ＳＤＧｓ宣言」（藤岡市立東中学校）
　生徒会活動として自分たちが日常行っている多くの活動が、ＳＤＧｓ達成につながるものであることを知る。そこで、持続可能な社会の実現のためにＳＤＧｓの視点で活動を見直し、取り組んでいくことを全校生徒に呼びかけ活動を進める。校区の藤岡第一小学校、美九里東小学校、美九里西小学校においても同一歩調で活動に取り組む。

②「ＳＤＧｓ人生ゲーム」を活用したＳＤＧｓ担い手育成事業への授業参加（藤岡第一小学校、藤岡第二小学校、美土里小学校、美九里東小学校、美九里西小学校、平井小学校）

東中文化祭でのプレゼンテーション

　文科省による「ＳＤＧｓ達成担い手育成（ESD）推進事業」として、㈱タカラトミーが教材開発した「ＳＤＧｓ人生ゲーム」の授業実践を行う。ＳＤＧｓ17の目標を企業が実践している取組から学び、自分たちの人生ゲームをつくる中で、目標に関係する社会課題を発見し、自分が考えた取組や改善するための行動を発表する。

③ニッセイ緑の財団事業「学校の木のしおり・樹木名プレート活動」（美土里小学校）
　木のしおり・樹木名プレートを設置する活動を通して、児童が学校内や周辺の樹木に関心を持ち、身近な自然環境への理解を深めることによって、植物や自然に親しみ、森林を愛することを目的としている。ＳＤＧｓの目標15「陸の豊かさも守ろう」に関連する。

中之条ユネスコ協会

組織・活動活性化への道－その２

会長　嶌村　真也

　昨年の「ユネスコ群馬」77号に中之条ユネスコ協会の課題と活性化への取り組みを紹介したが、今回は、その取り組みの進捗状況である。
　新型コロナ禍の中での組織・活動の再生的取り組みは非常に厳しく、新たな活動を計画・実施し、協会の存在意義や活動の価値を高めて、新会員勧誘につなげる当初の目論見は、現在ほぼとん挫している。
　役員会等の諸会議の中止も含めて、今年度の活動実績は０状態であるが、その中でも協会の意義や活動の価値を高めるささやかな活動として、途上国への医療・食料支援を目的とする「一杯のスプーン」募金を町民に呼び掛ける準備を進めており、また手作りの会員宛て通信も計画中である。
　また、会員の高齢化と減少の本ユネスコ協会の切実な課題に対して、昨年度新規に実施した「鈴木ひで氏絵手紙展」やユネスコ世界遺産に関わる沖縄首里城の再建募金活動などを実績として、現所属会員に１名以上の新規会員勧誘の働きかけを依頼した。退会する高齢化会員もいる中で、会員勧誘の呼びかけに応じた現会員も複数あり、若干の若返り会員の

増もあって、32人と、現状会員数は維持できている。
　一方、現会員は、平成22年度に六合村と合併する以前の旧中之条町民が会員範囲であったことから六合地区会員は皆無である。そこで、ユネスコ活動に共感いただける六合地区在住の理解者を得て、その方に中心となっていただいて六合地区の新規会員増につなげていけるようにしていきたいと考えている。
　最後に、協会の存在意義や活動の価値の創造と、会員を増やす取り組みの二兎を追う活動は今後も継続していきたいが、協会に体力をつけ、意義あるユネスコ活動に結びつけていくためにも、会員増の工夫として教育関係や行政関係などの既存の各種組織への更なる働きかけも考えていかなければならない。
　試金石は今後も続く。

大泉ユネスコ協会

啓発活動の内容・方法を模索しながら

副会長　清水　喜義

　本年は新型コロナ禍の中、国内はもとより、世界的に経済活動、教育活動など多くの活動が中止、自粛、また何らかの対策を講じた上での実施となってきています。
　当協会でも、年度初めの総会を中止し、会員に議案書の送付をさせていただくことでスタートを切りました。そして総会に続き、例年７月に啓発活動の柱の一つとして開催してきた「民間ユネスコ運動の日記念講演会」、８月の国際理解バス研修会や９月の会員研修旅行も中止を余儀なくされました。
　このような状況の中､各種活動を進めるにあたり、様々な分野でこれまでの活動の内容や方法についてその再考や発想の転換を促され、迫られることが多かったと思います。安全確保という観点が最重要課題となりますが、それを踏まえた上で、啓発活動としてできることは何か、どのような形や方法なら実施可能かつ効果的なのかを私達の協会も役員の知恵を出し合いながら考えてきました。
　その結果、国際理解バスに参加予定だった町内中学校２年生には、各クラスに国際理解関係の冊子を配布して活用をお願いしました。10月の「高校生意見発表会」は、中学校側の協力を得て、６人の高校生に放送室から校内放送を通した意見発表をしてもらい、生徒は各教室で聴講してもらう形で実施しました。結果として、例年のように発表者と聴講側が一堂に会し、直接向き合う形ではなかったものの、自分の教室で、自分の席で、先輩の言葉に耳を傾けることで、それなりの十分な成果が得られたと感じています。
　また、毎年多くの町民や事業所の方々にご協力いただいている「書きそんじハガキ回収キャンペーン」、また「ユネスコ協会便り」の発行も、このような年度だからこその思いを込めて工夫をしながら進めていきたいと思っています。（写真は放送室での発表の様子）

国際ソロプチミスト前橋

コロナ禍でのできることを一つずつ

会長　布川　敏恵

　今年の年度初めは例会を中止といたしておりましたが、ソーシャルディスタンスを守り、マスク・消毒を徹底しながらなんとか例会を再開いたしております。しかしながら、第34回日本東リジョン大会の中止・第46回連盟隔年大会は中止となり、ＦＡＸ・ＺＯＯＭ会議等での対応となりました。
　今後、今期の日本の５リジョンの共通テーマ「小さな一歩に誇りをもって」日本東リジョンのテーマ「心ひとつにワンチームでご奉仕を」を胸に、会員一同今出来ることを一つずつ行っていこうと考えております。
　９月にはやっと今年１年の会員の意識統一のため、ソーシャルディスタンスを保ち、色々な制限を付加しながら東リジョンの三役会議・研修会が開かれました。人数制限の為参加できなかった会員のために、東リジョンのホームページから研修会の各委員長報告が配信されております。
　我々も今後のイベントの延期等模索しながら、男女共同参画での防災リーフレット作成に参加・各高校のご協力により、毎年行っております高校生へのデートＤＶカードを８校に配布させていただくことができました。
　現在は、毎年恒例の介護施設慰問に向けて、会員各自、膝かけの作成に励んでおります。例年楽しい企画と共に慰問してまいりましたが、今年はお届けだけになるかもしれません。入所者の方への感染防止を考えますと致し方ありませんが、寂しい限りです。
　12月にはクリスマス献金を募り上毛新聞社・群馬テレビの愛の募金に寄付を行うことになっております。
　今後の養護施設慰問や高校生の弁論大会等、ワクチンの普及が進み実現できることを願うばかりです。

訃　報

中村宏氏（前橋ユネスコ協会顧問）

群馬県ユネスコ連絡協議会第６代会長を務められた中村宏氏におかれましては、病気療養中のところ、2020 年８月 12 日に満 87 歳にて永眠され、10 月 10 日（土）に故人のお別れ会が行われました。

氏は、1990 ～ 1993 年の４年間群馬県ユ連会長を、1993 ～ 1996 年には日本ユネスコ国内委員を務め日本ユネスコ協会連盟との連携を深められ、その功績により文部大臣表彰を受けられました。

矢島祭太郎氏（高崎ユネスコ協会名誉会長）

群馬県ユネスコ連絡協議会第 10 代会長を務められた矢島祭太郎氏におかれましては、2020 年 12 月 22 日に満 89 歳でご逝去され 12 月 26 日(土)に故人の告別式が行われました。

氏は、2004 ～ 2009 年の６年間群馬県ユ連の会長を務められました。日ユ協連主催ベトナム成人識字振興計画に共感し 2000 年から３度渡越、逆に 2000 年にベトナム教育視察団を受入れ日越交流に尽力。また、富岡製糸場の世界遺産登録運動に協力・貢献されました。

共に群馬県ユ連の会長としてユネスコの草の根運動を実践され、県内各ユ協の連携を図るとともに、県ユ連の充実に貢献されました。

ここに謹んでお悔やみを申し上げると共にお二人のご冥福をお祈りいたします。

故人にはそれぞれ生花を供して弔意を表したことをご報告いたします。

編集・発行
群馬県ユネスコ連絡協議会
発行責任者　樋　口　克　己
群馬県前橋市大手町１－１－１
群馬県教育委員会生涯学習課内
電話　027-226-4668

あ と が き

昨年令和２年春初めて事務局長という大役をお受けしました。７月東京オリ・パラリンピックの開催が群馬県に何か新しい風を呼んでくれるのでは!? 10月の関ブロ群馬大会を成功へ！と期待に満ち溢れたスタートを切りました。しかし、世界中に感染拡大したコロナによって、東京オリ・パラリンピックは延期となり、本文中でご覧になったとおりわが協会にあっても総会は県ユ連のみならず全ての県内ユ協で会議形式をやめ書面決議へ、ほとんどの行事が中止、そして前年から会議を重ねてきた関ブロ群馬大会も中止となってしまいました。このような状況下、県ユ連主催ユネスコスクール研究会が途切れることなく今年も開催されます。主管藤岡地方ユネスコ協会のコロナ対策へのご配慮と開催へのご努力に感謝申し上げます。

各ユ協の皆様には、「ユネスコ群馬」が群馬県内の各ユ協の情報連携や交流に資するものであるとのご理解から、原稿作成・提出に快くご協力いただき感謝申し上げます。

今年（令和３年）はワクチンが沈滞させた人々の活動を元通りにし、世界中の人々がマスクをはずす日が来ること、オリ・パラリンピック開催はもとより、私たちの活動がコロナ禍以前より一層活発になることを願ってやみません。

事務局長　松本千恵子

2021年 新年賀詞ご芳名

明けましておめでとうございます

群馬県ユネスコ連絡協議会

会　長	樋口　克己
副会長	北川紘一郎
副会長	岸　正博
事務局長	松本千恵子
他役員・理事一同	

桐生ユネスコ協会

会長兼事務局長	北川紘一郎
副会長	前原　勝良
副会長	下山　進平
副会長	高柳　光雄
副会長	田中　一枝
会　計	柿沼　直子

太田ユネスコ協会

会　長	中村　利光
副会長	馬場　敏生
副会長	城代　貴浩
副会長	小嶋　恵子
副会長	穂積　昌信
副会長	新井　正雄
副会長	金谷　光明
副会長	栗田　政子
事務局長	若田部茂子

前橋ユネスコ協会

顧　問	阿久澤和夫
会　長	矢島　俊夫
副会長	須藤　英雄
副会長	福島　輝巳
副会長	関根　長之
副会長	高島　美幸
副会長	宮川　孝子
事務局長	樺澤富美男

伊勢崎ユネスコ協会

会　長	設楽　孝吉
副会長	矢内三四外
副会長	横澤　克明
副会長	齋藤　文江
副会長	坂田　勝美

高崎ユネスコ協会

会　長	串田　昭光
副会長	上田　一美
副会長	岩井　聖子
副会長	豊泉　君代
副会長	渡部　孝男
事務局長	山﨑　貞幸

富岡ユネスコ協会

会　長	矢野　英司
事務局長	島﨑　佳彦

沼田ユネスコ協会

名誉会長	小林　照夫
顧　問	下田　一成
会　長	石田　宇平
副会長	宇敷　和也
副会長	矢嶋　照久
副会長	森田　経代
副会長	村澤　玲子
副会長	原沢　直久
副会長	小野瀬和男
事務局長	大島　俊夫

館林ユネスコ協会

会　長	大野　泰弘
副会長	奥野　榮通
副会長	小林　博子
副会長	遠藤　和昭
副会長	小林　悟
副会長	荘司由利恵
顧　問	蛭間　享一

安中碓氷ユネスコ協会

会　長	矢野　薫
副会長	矢野　篤
副会長	猿谷　憲
副会長	瀧田　和則
副会長	儘田　尚実
副会長	瀬山　善郎
副会長	小林　克行
事務局長	小日向和博

藤岡地方ユネスコ協会

会　長	岸　正博
副会長	依田　治雄
副会長	新井　松江
副会長	平居　利朗
副会長	西澤　恭順
副会長	新井　秀一
事務局長	岩﨑　哲
事務局次長	木村　順子

中之条ユネスコ協会

会　長	嶌村　真也
副会長	川越　節子
副会長	剣持　千秋

大泉ユネスコ協会

会　長	寺西　弘之
副会長	槻岡　則夫
副会長	石井　克己
副会長	清水　喜義

国際ソロプチミスト前橋

会　長	布川　敏恵
副会長	内田　初枝
理　事	井田喜代子
コレスポンディングセクレタリー	森田　光子

群馬県ユネスコ連絡協議会　加盟団体

桐生ユネスコ協会　太田ユネスコ協会　前橋ユネスコ協会　伊勢崎ユネスコ協会
高崎ユネスコ協会　富岡ユネスコ協会　沼田ユネスコ協会　館林ユネスコ協会
安中碓氷ユネスコ協会　藤岡地方ユネスコ協会　中之条ユネスコ協会
大泉ユネスコ協会　国際ソロプチミスト前橋